

で給食を実施したいとの要請です。

60人あまりの子どもたちの1週間あたりの予算は下記のとおりです。

近隣のチボリ族の場合は、別のミッションが長年学校給食を実施しており、私も昼時に訪ねたことがあります。あの小さな子どものおなかのどこに山盛りご飯が、と思うほど大盛りでした。それがその日唯一満身に食べられる食事と聞いて納得したものです。今回のピラーンの給食費試算では、一食あたり一人2カップほどの量になっています。

運営委員の方々にご相談した結果、今回は治安悪化が原因の緊急援助とみなし、会員有志の寄付で応じようということになりました。もしご協力いただける方は、来年3月末まで寄付を受け付けさせていただきますので、振込用紙に給食費援助と書いてご送金いただければ幸いです。新しい会の名称で振込用紙印刷しましたので、この機会に一枚ずつ同封させていただきました。

(山崎)

米 20kg × 週3回 = 60kg × 18ペソ = 1,080ペソ

魚または肉 200ペソ × 週3回 = 600ペソ (合計 1,830ペソ)

調味料 50ペソ × 週3回 = 150ペソ

(1ペソ4.5円として1週間あたり8,235円、4ヶ月で131,760円です。)

クリニック報告 (ライフセンター/KLAWIL GUTNGA) ・ ・ 10月分

<入院治療費の援助>

患者数: 合計 8名

入院例: ロネル・マリロちゃん。マラパタン町・ダンスヤン・コミュニティーの1歳半のピラーン族の男の子。大腸の疾患で10月9日にジェネラルサントス地区病院で開腹手術。患者の家族に支払能力が全くなかったため、手術費など約9,000円の治療費をライフセンターが全額援助した。

<医薬品代>

クリニック用医薬品代金支払い (9月25日から10月31日まで) ・ ・ 約4万5千円。

11月の無料診療用医薬品購入…約1万8千円

<疾患別クリニック利用患者数>

咳 (20)、熱 (11)、頭痛 (9)、歯痛 (8)、腹痛 (6)、皮膚病 (6)

けが (5)、その他 (9)

<輸送費・事務経費>…約4,500円

(報告作成: マリル・S・ギボン…CMB専属看護婦)

入院・手術については、サムラング周辺だけでなく、ジェネラルサントスに設置されたCMB先住民事務所に支援を求めてくるサランガニ州のピラーン族を広く対象としています。この経費も、クリニックの医薬品とともに、その多くをHANDS正会員の皆様の会費およびご寄付でまかっています。おかげで10月も多くの患者の支援要請に応えられたと、CMBからの感謝の言葉が報告の最後にありました。

(山崎)

あひるが卵を産んでくれません・ライブリフード・プロジェクト (現金収入増加事業) 報告 ・ ・ HANDSの貸付金で飼ったあひる 200羽ですが、飼育に問題があるのかなかなか卵を産みません。えさ代は、ウェポンキャリアーの収益で何とかまかっています。もうすぐ産んでくれると期待しているのですが…。(CMBのファックスより)

ウェポンキャリアーは、がんばっています ・ ・ 以前に通信でご紹介したように、ウェポンはHANDSの貸付金で買った中古4駆トラックです。業者に頼むと輸送費を高く取られ、コーンを売っても住民の手取りが半分になってしまうので、この輸送と患者搬送その他をCMB自前の車で購入したトラック。7~10月の収支報告が届いています。

黒字だった9月は、輸送費収入 約3万7千円、修理、ガソリン代、運転助手への支払など経費合計が約2万7千円。1万円の収益。7,8月もともに約7千円の黒字。赤字だった10月は、収入 2万4千円。修理費がかさんで経費は2万8千円でした。(CMBのファックスより)